

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム浜屋		
所在地	静岡県静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2294200080-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「当たり前前の生活と寄り添う介護」を基に、私たちが「当たり前前の生活」を考えながら日々サービス提供に取り組んでいます。入居者様々々の「当たり前」世間の「当たり前」施設の「当たり前」等色々ありますが、後者の“施設の当たり前”がなるべく少なくなるように…あなたらしい生活を継続できるように…そのことを強く意識して業務に就いています。懐かしい雰囲気、ホッと落ち着ける空間づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建てられた和風で民家調の施設は、自宅にいるように感じられる。利用者は自由にのんびり過ごしており、庭に面した日当たりのよい広縁やウッドデッキでは、椅子に腰掛けたり、日向ぼっこをしたり、横たわってお喋りをする利用者が多かった。ホーム長と主任そして職員の意思疎通、信頼関係そして協力体制が強固である。年6回開催の運営推進会議と同日開催する新年会や雑祭・七夕食事会・敬老会・クリスマス会やその他食事会には家族のほとんどが参加し、全家族が月1回以上来訪している。それに加えて今回のアンケートもすべての家族から回答が寄せられる等、ホームと家族との信頼関係と協力体制ができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「当たり前の生活の提供と寄り添う介護」を理念に掲げて日々の生活を送っている。慌ただしく過ぎていってしまう日々の中で初心を忘れない為にも職員一同が意識を持って仕事に就いている。	理念「当たり前の生活の提供と寄り添う介護」のもと、利用者が「あなたらしい当たり前の生活」を送ることができるようにするため、理念を意識し共有することを浜屋会議の中や職員同士の話し合いの中で徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎日のお散歩や運動会など町内の行事に参加させて頂いている。近年では町内の方から声を掛けて頂く事が多く、家の庭の花を見に行かせて頂く事もあった。	町内の運動会に参加し、地域の住民が法人の夏祭に参加する。散歩時に住民からの声掛けが多く、ホームの塀沿いに毎年ダリアを育ててくれる住民もいる。福祉系学生の実習と小・中・高校生の見学や体験の受け入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では自治会長をはじめ地域包括の方や民生委員の方にもご参加頂き、入居者様の状態や認知症についても理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告についての説明を行った際には改善点を挙げて頂き直ぐに対応策として取り組む事が出来た。	自治会長と民生委員3名、地域包括支援センターや多くの家族に加え、年1回市介護福祉課が参加し年6回開催している。ホームから活動報告や事故報告等を行い、参加者からは意見・要望や改善点についての提案もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加の依頼を行い、実際に参加頂く事が出来た。その際に相談をさせて頂いたり、ご家族様へ向けての助言もして下さった。	運営推進会議に地域包括支援センターが毎回参加し、市介護福祉課も参加している。市介護福祉課には相談をしたり助言をもらい、地域包括支援センターには運営推進会議の予定表を持参する等で随時訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束はしないという事は大前提であり、加えて「言葉の拘束」もしないようにする事を日ごろから強く意識している。	ホーム勉強会や浜屋会議、法人の勉強会で徹底しており、身体拘束をしない介護を意識しなくても実践できるのが当然という気持ちで取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は会議の場等で職員に向けて、虐待に至る経緯を説明すると同時に、職員が自分自身の行動も振り返り・改める様に促している。職員も各々が考える機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所から現在まで左記に該当される様な入居者様がいらっしゃらない為勉強会は行っていないが、今後の為にも学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけて説明を行っている。また、改正時にもその都度説明を行っている。日頃からご家族様と関わる機会が多い為コミュニケーションを図る事で疑問点等も聞きやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ヒヤリハット・苦情」の活用ならびに日頃の会話の中での想いを知る事が出来た際には、職員同士で共有し、より良い生活につながる事が出来るように対応していきたい。	運営推進会議と同日開催する新年会や雑祭・七夕食事会・敬老会・クリスマス会やその他食事会に家族のほとんどが参加し、全家族の月1回以上の来訪がある等、ホームと家族の信頼関係と協力体制ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が互いに仕事のやりがいを感じられる様、コミュニケーションを図っている。これからも各々の意見を聞き業務改善につながる事が出来る様に対応したい。	浜屋会議では職員から多くの意見が自由に発せられ、日々の業務中に加え休憩時間も使って随時個々の職員の意見を汲み上げるようにしている。特に非常勤の職員の意見は意識的に吸い上げるように努力している。	今回の自己評価は、項目ごとに職員を決め意見を聞いて作成した。もう一歩進めて、全体についても各職員の意見を聞き、出来上がった後にそれを全員に周知することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は誰に対しても同じバランスでコミュニケーションを図り、一人ひとりの精神状態も考慮しながら職員と接する様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は随時「今、足りない知識」等を挙げ、勉強会に組み込む様に指示をしたり、個々への指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区内のグループホームとの交流会に参加し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、否定的な声掛けをしないように努める事で入居者様の気持ちが安らげる一つの方法だと考えている。また、落ち込んだり怒ったりする感情が起きないような前もった対応も考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の抱えていらっしゃる想いを日頃のコミュニケーションの中から汲み取り、職員間でも情報を共有する事で安心感をもって頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つに限定せず、より多くの可能性を含めた選択肢を提案させて頂き、そこから今必要とされるケアの提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る事はやって頂き、出来ないことは一緒に」という心で接する事を念頭に置いている。職員が助けて頂く場面も多くあり、支え合いながら生活していると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外泊・外出等、ご家族様と入居者様が関わる機会は重要な時間であり、大切に考えている。さらに、ご家族様と職員が情報共有する為に、月報告で一ヶ月のご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のなじみのある場所へドライブに出かける事がある。ご友人様の面会や外出先でのご友人様との交流する時間を設けるなど、ご家族様の協力もあり、成り立っていると考えている。	ドライブや週2～3回の買い物に合わせて利用者の自宅周辺を回っている。家族同伴で婦人会に出席したり、来訪した友人と外出したり、ホームの敬老会に友人と一緒に出席する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が交流している際、あえて中に職員が入らない事で生まれる関係性を大事にしている。関わりが難しいと感じられる際には、職員が介入し円滑に流れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でご連絡をさせて頂いたり、退居された後もご家族様からの寄付を頂いたり等、交流を継続させて頂いていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の想いを無理矢理聴き出すのではなく、何気ない日常の会話の中から発せられる想いにこそ本心があると考え、記録する様にしている。表情や態度の観察にも努めている。	今年度は、終末期をむかえた利用者が、「どこで、誰と、どのように過ごしたいか」を家族を交えて話し合い、本人が望む暮らしを支援している。利用者と職員の意思疎通を図り、個々の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を探る為に、ご家族様にお話を伺ったり、日頃の会話で昔の生活について伺っている。そこから汲み取られる想いや、生活のリズムを把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤職員の全員が、各入居者様のその日の様子を記録に残し、毎日の積み重ねを一カ月毎にまとめている。そして毎月の職員会議で処遇を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「25」と同様で、記録を毎日落としていき、一カ月の様子をまとめ、会議ではより良いケアに向けて話し合いを行い、ご家族様へも一カ月のご様子を文書、面会があった際には口頭でもお伝えしている。	3名の職員が利用者3名を担当している。担当者のモニタリングと本人や家族・関係者からの意見やアイデアを基に職員会議で話し合い、一人ひとりの現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の発言やご様子等を記録に残す日誌に加えて、さらに細かな処遇(介護方法等)に関しては別紙を設けて、統一したケアを行える様に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化などに伴い、ご本人様をはじめご家族様の想いも踏まえた上で何が最善のケアかを考えて提案出来る様に心がけている。(訪問看護、訪問リハの検討、他施設への転居など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、町内の行事への参加、隣接するなごみでのレク等、御本人様の嗜好や状態にあった物を考えて参加出来るように努めている。こういった機会に地域の方々やボランティアの方々のご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで生活していた時と変わらない状況を継続する為にご家族様へ受診のお願いをしている。状態の変化に伴い受診する事が難しくなった際には話し合いを行って、往診への切り替えをしている。	通院同行は家族を基本としている。通院時の情報提供と必要に応じた職員の立ち合いや、通院が困難な利用者の往診受け入れを行っている。医師と事業所の関係が築かれた、適切な受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に状態変化があった時には随時報告を行い状態を診てもらっている。また、介護職員が独断で判断をする事が無いように看護師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	済生会との連携協力体制をとっている。また、入居者様が入院や受診となった際には病院の相談員さんや看護師さんと相談や連絡をとりあっている。退院後も浜屋での生活を穏やかに送れるように情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化に関する説明を行い、同意を頂いている。重度化・終末期等にはその方がどの様な状況であるかを考慮してその都度ご家族様・医師・看護師と話し合いを行ってケアの検討をしている。往診や訪問看護、緩和ケアなどを活用する事で安心して生活を送れる様に考えている。	重度化や終末期のあり方について、事業所で出来ることなどを家族会で説明し、理解と承諾を得ている。細部にわたる状況を関係者と話し合っ共有し、本人が望む終末期の暮らし方の支援を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員を対象にAEDの講習を行っている。病院やご家族様への連絡等についてはマニュアルに沿って行う様に定め、職員も日頃からマニュアルを読み込んで非常時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練を行い、地域の方々にもご参加頂く事もある。今年度に関しては地震・火災それぞれ夜間を想定した訓練を施行。消防署への相談も行い、より確実な訓練になる様に考えて行なった。	「限られた職員数でどこまで避難誘導が出来るかを知る事が大切」という消防署員の指導を受け、今年度は主に夜間を想定した避難訓練を2回行っている。パニック状態と俊敏な行動への不安が課題として挙がる。	パニック状態回避と俊敏な行動への工夫に取り組み、全職員が身に付けることを期待したい。また、昼夜の防災訓練を重ね、さらなる災害対策の強化を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が人に聞かれたくない事は入居者様も同様で他の人には聞かれたくないであろう。その様な際の声掛けは、音量と場所を配慮して行なっている。また、職員同士で話す際にも入居者様の名前は聞こえる音量で言わない様にしている。	申し送り時の職員の周囲を気遣う話し声や利用者への穏やかな語りかけ、便座に座った時に使う膝覆いなどに人格の尊重と誇りを損ねない配慮が窺える。個人情報に関わる書類管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物・かけたい調味料・やりたいレクリエーション・寝る時間・見たいテレビ等日常の小さな決定事項でも伺って、ご自身で決定して頂いている。全く意見が無い際にも選択肢を絞って選択しやすくするなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活のリズムはご本人様本位で過ごして頂いている。しかし、単調な生活ではメリハリが無い為、外出や散歩・レクリエーション等の機会を設け、選んで参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪形、洋服の選択等ご自分でなつて頂いたり、一人では難しい方に関しては職員が介入している。理髪に関しても切りたい時期等のタイミングを伺いながら行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に調理を行っている。出来る事、難しい事を考慮してお手伝いをお願いしている。また、食事の温度も重要なので温かい物は温かく食べられる様に対応している。季節感を感じられる献立も工夫をしている。	利用者の好みや郷土に根付いた料理なども献立に取り入れている。一人ひとりのタイミングに合わせ、美味しい状態で配膳するなどの気配りもあり、完食する利用者が多い。食事を楽しむことのできる工夫が随所に窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理等で食事摂取量の調整が必要な方に関しては盛りつけ方の工夫をしたり水分補給は様々な種類の物を各々選んで提供している。また、入居者様の食べたい物や郷土料理をメニューに組み込む等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下機能の向上として歌を歌ったり、口腔運動をしている。自立している方でも、口腔内の観察を行い、異常時の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアは随時交換を基本とし、その方の排泄パターンを把握して不快な想いをされない様に対応している。また、布パンツ→パット→リハパン→オムツなどの過程を単純に行う事が無い様にケア方法の工夫で対応出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	直ぐに下剤を使用する事は簡単な事だが、その前に排泄の習慣化や便通に良い食品を摂って頂いたり、運動を取り入れたりしている。薬に頼らない排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行なっている。お一人お一人のその日の気分(声掛けの反応)や状態で入浴の施行や中止を決めている。また、入浴はリフレッシュの時間と捉え、入居者様と職員とのコミュニケーションの場にも活用されると考えている。	毎日を入浴可能日としているため、入居者に無理強いすることなく希望に沿った入浴支援をしている。浴室では職員との会話も弾み、親交を深めたり、一人ひとりの情報の収集場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご自分のペースで決めて頂き、臥床まではテレビを見たり、お茶を飲みながら他入居者様と談笑されて過ごされている。また、体力面を考慮して日中も臥床時間を設ける等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しいお薬を処方された方に対してはその後の様子観察に努めて症状の有無が無いかの観察を行っている。服薬の錠数や日付、時間等も間違いが無い様に介護職員も重ねて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「その方らしさ」の情報をご家族様や調書、ご本人様との会話等から収集し書き留め、職員間で情報共有を行っている。どんな生活を送る事を望まれているのかを探っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションとして外出の機会を設けている(遠足・敬老会・花見・ドライブ等)他に、日常的に買い物の同行をして頂いている。また、ご家族様との関わりの中で外出の機会を作って頂く事も多いのでご家族様の支えがあって成り立っていると考えています。	夏季や冬季の外出は少なくなるが、天候や体調の良い日には近隣を散歩している。地域の人との出会いや、菊の花の観賞招待も有り、日常の外出を楽しみにしている。また、本人が希望する普段は行けない場所への外出も家族と話し合いながら、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布の管理をしている方もいれば、事務所で管理を行い外出時にご自分で持って頂く方もいる。ご自分の好きな物を購入する事は大事な機会であると考えている。その際、何にいくら使用したかは職員が把握する様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があった際には、職員が介入して電話をかける事がある。また、不穏時にご家族様と会話をする時間を作って頂く事もある。暑中お見舞いや年賀状等、ご自分で書ける方には書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特にパブリックスペースにおいては、空間にそぐわない物は置かない様にしている。誰もが居やすい環境や懐かしさを感じられる空間を作る事で、入居者様が自然と集まって来られるのだと考える。	庭に面した日当たりのよい広縁やウッドデッキでは、椅子に掛けたり、横たわってお喋りし合う利用者の姿が目にとまる。余分な音や置物は排除されて、季節の花々が飾られている。自宅を思わせる工夫に、懐かしさと居心地の良さが漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居られる場所や時間を大切に考えている。施設は死角となる空間をあえて作っており、職員等の視線を常に感じる事が無い様になっているのと同時に、その分事故のリスクが高まるので所在確認と行動把握に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活していた中で使用していた家具や物を持ってきて頂き、浜屋での生活に取り入れて頂いている。ご家族様が写真を持ってきて下さったり、入居者様に合わせた備品を揃えて下さる事も多く、ご協力頂いている。	家族と協力し合い、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせる居室がつけられている。個々に合わせた居室内の配置や装飾、危険回避への工夫の取り組みが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面であえて危険と感じられる様な作りになっている部分もあるが、それが事故を招かない様に、ご本人様の状態を考慮して介助に入っている。また、必要以上に介助を行うのでは無く、残存機能を生かして頂ける様に対応している。		